



横浜市立桂小学校

桂小だより

KATSURA NEWS LETTER

5月号

令和3年4月30日

Web: <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/katsura/>

学校についての詳細や学校生活についてはHPをご覧ください。

E-mail: y3katura@edu.city.yokohama.jp 桂小学校HPのQRコードはこちら→



竹の話

校長 寺澤 みゆき

私は静岡市葵区の山間の出身です。今も両親が暮らしており、農業を営んでおります。

春はたけのこの旬の季節。住居の近くに孟宗竹林があり、私の実家でも毎年たくさんのたけのこを収穫します。特に今年は豊作のようで、4月初め、我が家にたくさんの水煮が届きました。煮物にしたり、炊き込みご飯にしたりと味わいながら、子どもの頃のことを思い出しました。

小学生の頃は、親に付いて山の斜面の竹林にのぼり、たけのこ掘りの手伝いをしていました。土から出るか出ないかのたけのこの先を、かすかに盛り上がった地面の状態から見つけ、大きさを予想して周囲を掘り、鍬をふるって根から切り離し掘り起こす、そんなことができる小学生でした。

掘り出したたけのこは皮をむき、米ぬかを入れた大鍋で煮ます。ぬかであく抜きをすることでたけのこはおいしく、日持ちするようになります。

皮をむく作業は子どもでも容易にできるので、かなり小さな頃から手伝っていました。たけのこの皮は節の部分にくっついているので、皮むきはそこからペリペリとはがすだけの簡単な作業です。その作業を繰り返していく中で、面白いことに気づきました。

小さめなたけのこでも、子どもの腕で一抱えもある大きなたけのこでも、その節の数は同じくらいなのです。大きなたけのこは、その大きさと同様に節の数も2倍3倍もあると思っていたのですが、皮をむいた後に数えてみると、さほど差がなく不思議に思ったことを覚えています。

また、十何メートルもの高さになる竹でも、節の数はたけのこの頃から決まっており、成長に伴って増えるものではないということ、竹は節と節の間が伸びることで成長するのだと、親から教わりました。ほかの植物と同様、茎や枝の先端が成長すると思っていたので、それも不思議で面白く感じました。

子どもの成長は、たけのこが竹に育つのによく似ていると私は思います。「年度」という節の区切りが1年1年積み重なり、人間として成長する。たけのこが竹になるように、節目の間が大きく育ち伸びていけば、全体が大きく、高くなっていく。一つひとつの節目の間を、それぞれ充実させることで、大きく育ててほしい。

そのような思いを込めて、今年度の前期始業式で子どもたちに、竹の成長の話をしました。節目の間、自分の「令和3年度」を大きく長く充実したものにして成長してください、と締めくくりました。

令和3年度も昨年引き続き、感染予防についての教育と対策を行いつつ、教育活動を進めていきます。先日の懇談会で、担任からお話ししましたように、今年度は学校行事や様々な活動について、実施することを前提に計画を進めております。しかしながら、感染の拡大状況やとらねばならない対応は日々、変わっています。行事や活動の延期や方法の変更があった場合、できる限り早めにご連絡するようにいたしますが、状況によっては直前の変更や延期もあり得ることを、ご理解いただけますよう、お願いいたします。

竹のように、コロナ禍にも負けることなく、しなやかに、教育活動を進めていきたいと思っております。

地域の皆様、保護者の皆様、今年度も本校に対するご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

